

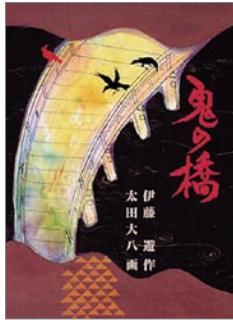
「ポッコちゃん」



バーのマスターが作った、精巧な美人のロボット、ポッコちゃん。店のカウンターの中におかれたポッコちゃんを、誰もロボットだと気が付きません。楽しい短編が全部で50編入っています。

星新一 著
新潮社 590円

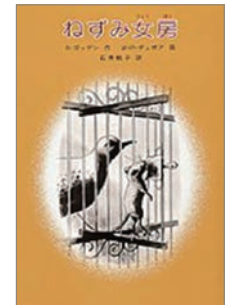
「鬼の橋」



井戸からあの世へ通い、閻魔(えんま)大王の右腕として働いたという伝説を持つ小野篁(おののたかむら)の繊細な少年時代を描く。少年篁は、妹が命を落とした古井戸から冥界の入口へと迷い込む。そこはあの世とこの世を結ぶ道となり、やがて鬼が現れる。

伊藤遊 作, 太田大八 画
福音館書店 1400円

「ねずみ女房」



家の中が世界のすべてだと思っていたねずみ。ある日やってきた“きじぼと”は、そんなねずみに、閉じ込められた鳥かごの中で外の世界のことを話してくれます。だんだん元気がなくなっていく、はと。ねずみはある日決心します。

ルーマー・ゴッデン 作, W・P・デュボア 画, 石井桃子 訳
福音館書店 1200円

「君たちへの遺産 白神山地」



世界遺産の白神山地。その森の豊かな自然と、歴史・文化を紹介します。

齋藤宗勝 著
アリス館 1400円

「道具と機械の本」



原始的な道具から現代的な機械の仕組みまでを、わかりやすいイラストで、原理によって分類し解説している本です。思わずうなってしまう一冊。

デビッド・マコーレイ 作, 歌崎秀史 訳
岩波書店 7600円
(表紙は旧版)

「みんなのなやみ」



なやんでいたっていいじゃないか。もやもやしてもそれでいい。なやみとのつきあいかたを、著者といっしょに考えていく。

★ 重松清 著
新潮社 630円
(表紙は理論社)

「ブロード街の12日間」



19世紀、ロンドンのブロード街にコレラが流行する。秘密をかかえ、悪党に追われながら1人でたくましく生きていた少年イーラは、医師のスノウ博士とともにこの病気の原因をつきとめるため奔走する。スノウ博士は実在の人物。

デボラ・ホプキンソン 著, 千葉茂樹 訳
あすなろ書房 1500円

京都市図書館では、子どもの読書活動の推進について、関係団体の皆様と『子どもの読書活動推進のための懇談会』を設け、協議しています。平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されたことを記念して、平成14年4月に子どものためのブックリスト「本のもり」を作成しました。

このリストには、図書館や書店・子ども文庫で出会ってほしい本を、各年代別に30冊選びました。このブックリストが、子どもが本を読むきっかけになれば幸いです。 令和2年4月

子どもの読書活動推進のための懇談会
・京都市小学校図書館研究会 ・京都市立中学校教育研究会図書館教育部会
・京都市PTA連絡協議会 ・京都市子ども文庫連絡会 ・京都府書店商業組合
・京都市私立幼稚園協会 ・京都市保育園連盟 ・こどもみらい館子育て図書館
・京都市教育委員会 ・(公財)京都市生涯学習振興財団

問い合わせ先：(公財)京都市生涯学習振興財団<京都市図書館>
電話 075-802-3145 (総務課企画係)

★このマークのついている本は、シリーズがあります。

ブックリスト



<中学校編>

子どもの読書活動推進のための懇談会

*表示価格は税抜き本体価格です
(令和2年4月現在)

「モモ」



“灰色の男たち”にそそのかされた人々は、良い暮らしをするためにと思い込み、必死で時間を節約し、せかせかと生きるようになりだした。モモは、時間どろぼうから、盗まれた時間を取りかえそうとする。

ミヒヤエル・エンデ 作, 大島かおり 訳
岩波書店 1700円

「100万回生きたねこ」



100万回死に、100万回生きたねこがいました。その間、自分以外のものを愛したことのなかった彼が、ある時1ぴきの白いめすねこに恋をします…。

佐野洋子 作/絵
講談社 1400円

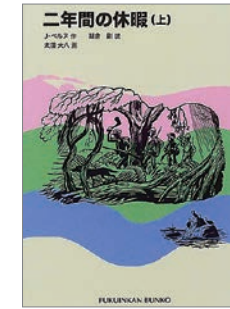
「センス・オブ・ワンダー」



この本は、自然の美しさや神秘を子どもとともに、どのように感じあったらいいかを作者の実体験を踏まえ、味わい深く語っている。文中の写真は美しく、読む者の目をくぎづけにする。

レイチェル・カーソン 著, 上遠恵子 訳
新潮社 1400円

「二年間の休暇」



15人の少年をのせた大型ヨットが、無人島に流れ着く。互いの偏見や反目を乗り越えて団結し、困難に立ち向かう少年たちの姿が描かれる。おなじみ「15少年漂流記」の完訳版。

ジュール・ベルヌ 作, 太田大八 画, 朝倉剛 訳
福音館書店 2300円
(表紙は福音館文庫)

「ヒトラー・ユーゲントの若者たち」



『どうして現れた。わたしたちを、この混沌とした世界から救い出してくれる人が』多くの若者達がそう信じ、夢中になった。ヒトラーの熱い呼びかけを聞いて。ナチスに身も心も奪われていく多くの若者がいる一方で、ナチスに疑問を感じ、反旗をひるがえした若者達もいた。

S・C・バートレット 著, 林田康一 訳
あすなろ書房 1300円

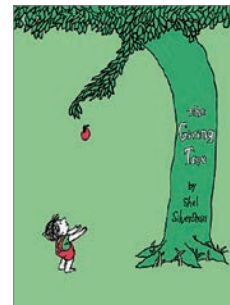
「算法少女」



江戸の下町に暮らし、父の手ほどきを受けながら和算書「算法少女」を記した娘あきが、大名や学者相手に算術の対決に挑む。「和算」は学者だけでなく武士や庶民にも広まっていた日本独自の算術で、和算書「算法少女」は現存する。

遠藤寛子 著
筑摩書房 900円

「The Giving Tree」



男の子の成長をずっと見守ってきた木があった。でも男の子は大きくなると木に会いにこなくなり、木と遊ぶよりお金が欲しいと言うようになる。無償の愛を与え続ける木の物語。英語での原文に触れてみてください。

©1964, renewed 1992 Evil Eye, LLC

Shel Silverstein
HarperCollins Publishers 2950円

「弟の戦争」



“ひとつの小さな体の中に戦争が丸ごとあった”
絶対的な正義の名のもとに行われた湾岸戦争。遠く、イギリスの地で少年は、弟をとおしてその戦争を見ることになる。

ロバート・ウェストール 作, 原田勝 訳
徳間書店 1200円

「運命の騎士」



時は、11世紀。
イギリスはノルマン人の支配下にあり胎動の時期を迎えていたころ…
犬飼の孤児ランダルが、ついに騎士となるまでの数奇な運命が描かれています。

ローズマリ・サトクリフ 作, 猪熊葉子 訳
岩波書店 800円
(表紙は単行本)

「君たちはどう生きるか」



中学2年生のコペル君を通し、“人として生きる意味”を考えさせられる作品です。
助言者役である彼のおじさんの存在が際立ちます。
初版は1937年ですが、その内容は今なお少しも古くなっていません。

吉野源三郎 著
ポプラ社 760円
(表紙は単行本)

「私は売られてきた」



これは現実には起きていないことをもとにしたお話です。13歳のラクシュミーは、知らない国に売られて行きます。状況もわからないまま、強制的に働かされる辛い日々。それでも彼女は知る喜びを見つけ、希望を失いませんでした。

パトリシア・マコーミック 著, 代田亜香子 訳
作品社 1700円

「あん」



どら焼き屋の店長千太郎と中学三年生のワカナが会った老婦人徳子は、辛く哀しい人生を送ってきた。徳子の優しさに包まれた二人は、ハンセン病患者に対する偏見と差別の歴史を知り、生きる意味を考える。

ドリアン助川 著
ポプラ社 600円

「正しいパンツのたたみ方」



保健体育＝身体の感性をみがく教科、芸術＝心の感性をみがく教科、では家庭科は？
家庭科とは暮らしの感性をみがく教科なのだ。
自分の暮らしを整えるだけでなく、社会の中で他者とともに生きていく力を身に付けよう！

南野忠晴 著
岩波書店 840円

「水底の棺」



平安時代末期、狭山池は作物の育たぬ泥沼となった。小松は辛い思い出ばかりの故郷を出て京に向かう。東大寺再興に尽くす重源、その弟子蓮空、宋からきた恵海…。様々な人々と出会い、その生き様に触れた小松は、己と向き合い、逃げ続けた狭山池と向かい合う決意をする。

中川なをみ 作, 村上豊 画
くもん出版 1400円

「忘れ川をこえた子どもたち」



“忘れ川”に囲まれた領主の館にクララとクラススの姉弟が、ガラス職人の両親が知らない間に連れてこられた。フクロウやカラスが言葉を話す中世の物語。幼い姉弟は、両親と再び会えるでしょうか…。

マリア・グリーペ 作, 大久保貞子 訳
富山房 1456円

「思い出のマーニー 上・下」



みんなの中にとけこめず、自分の中に閉じこもっているアンナ。都会を遠く離れた村での不思議な少女との出会いが、アンナの心を変えていきます。

ジョン・ロビンソン 作, 松野正子 訳
岩波書店 各640円

「影との戦い」



人より優れた能力を持っていたゲド。その驕りの気持ちから、死の影を呼び出してしまふ。その影に追われ、苦しみ続けるゲドは、やがて影と立ち向かう。その影の正体は…。

ル＝グウィン 作, 清水真砂子 訳
★ゲド戦記
岩波書店 1700円

「ツバメ号とアマゾン号 上・下」



「オボレロノロマハノロマデナケレバオボレナイ」
大好きな父からのゴーサインを受け、ウォーカー一家の4人きょうだいは、小さな帆船ツバメ号で湖の探検にでかける。無人島でのキャンプ、アマゾン海賊からの挑戦、宝探し、嵐の一夜…。子どもたちだけで過ごす夏休みの冒険物語。

★
アーサー・ランサム 作, 神宮輝夫 訳
岩波書店 各760円

「海の島」



第二次世界大戦初期、ナチスのユダヤ人弾圧から逃れるためオーストリアからスウェーデンに疎開してきた姉妹の成長物語。屈託のない妹ネツリに複雑な心情を持つ姉ステフィは、両親との再会を心の支えにここでの生活を受入れようとする。

★ステフィとネツリのお話
アニカ・トール 著, 菱木晃子 訳
新宿書房 2000円

「きれいな絵なんかなかった」

こどもの日々、戦争の日々



ユダヤ人であるために、ヒトラーによって踏みじられた少女時代。被害者という立場を越えて、自らの体験をありのままに綴った絵本作家アニタ・ローベルの自伝。

アニタ・ローベル 作, 小島希里 訳
ポプラ社 1600円

「西の魔女が死んだ」



登校拒否だった中学1年の時、まいは“魔女”とよぶ英国人の祖母と生活を始める。自然に抱かれ祖母と暮らすうちに、まいは生きる力を取りもどす。

梨木香歩 作
新潮社 490円
(表紙は小学館)

「飛ぶ教室」



ドイツの寄宿舎でクリスマスを迎える準備におおわらわの子どもたち。でもそれぞれに家庭の事情が見えかかっている。やがて子どもたちは、友だちや先生との深い心の結びつきが、自分の成長を助けてくれることを知る。

エーリヒ・ケストナー 作, 高橋健二 訳, ワルター・トリーヤ 絵
岩波書店 1600円
(表紙は函)

「ハートビート」



12歳のアニーは、はだして大地をふみしめ走る。アニーの母親の中では、赤ちゃんが少しずつおおきくなり、それに呼応するように、これまでいつもかしく頼りになった祖父は、日に日に弱っていく。家族それぞれの命のリズムをみつめる、散文詩形式の作品。

シャロン・クリーチ 作, もきかずこ 訳
借成社 1400円